

第9回 杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会会議録

会 議 名	第9回杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会
日 時	令和元年7月25日（木）午前10時00分～正午
場 所	富士見丘小学校 特別活動室
出 席 者	懇談会委員17名（欠席7名）
傍 聴 者	0名
次 第	1 開会 2 前回懇談会の主な意見 3 ゾーニング及び平面計画の比較検討について 4 閉会
資 料	資料1 第8回懇談会の主な意見等 資料2 アプローチ・ゾーニング計画比較表 資料3 各案平面計画（イメージ） 資料4 ラーニングセンター（図書館）の考え方について

進行役	<p>それでは皆さんおはようございます。定刻になりましたので、本日の富士見丘小・中学校改築検討懇談会、第9回を始めさせていただきたいと思えます。</p> <p>本日も、会議時間は2時間程度を目安に進行したいと思えますので、ご協力のほうお願いいたします。</p> <p>（欠席者・遅刻者についての連絡）</p> <p>それではまず、配付資料の確認等を事務局からお願いいたします。</p>
学校整備課長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>私のほうから配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（配布資料の確認）</p> <p>資料については、以上のとおりでございます。</p> <p>また、席上には、前回の懇談会の会議録を配付しておりますので、ご確認をよろしく願います。</p> <p>以上です。</p>
進行役	<p>それでは、議題に入ってまいります。</p> <p>次第2として、前回の懇談会の主な意見について、続けて次第3として、ゾーニング及び平面計画の比較検討について、一括して説明をお願いいたします。</p>

教育施設計画推進担当係長

おはようございます。

それでは、資料1をお開きください。前回、5月に行いました第8回懇談会での主な意見等をまとめてございます。

前は、設計会社が決まったということで、プロポーザル方式で選定した際の山下設計さんの企画提案についてご紹介をいただいて、それに対するご意見、ご質問等をいただいたという内容でございます。

主な意見をご紹介いたしますと、まず、1点目、小学校側に図書館がまとまっていると中学生の足が遠のいてしまうのではないかとということで、利用率が下がらない工夫を考えてほしいというのが1つ。

それから2点目としまして、中学校棟にありました「ラーニングスペース」というものが平面計画でございましたが、そちらのほうの活用イメージをしっかりと共有しながら進めたほうがいいのではないかとというのが2つ目。

3点目としましては、PTA室や学校支援本部室は、小・中共用ではなくて、それぞれ設置が必要ではないか。

それから、4点目としまして、学童クラブの日当たりについて、アリーナの北側にあるということで、休み中などの、日照条件等も加味しながら比較検討してほしいというご意見。

それから、今後の工事に関して、工事車両の動線については、周辺道路の交通環境や、商店街等の影響なども考慮して検討してほしいというご意見。

その他といたしましては、子どもたちの意見やアイデアなども、何らかの形で参加できないかというご意見をいただいたと思います。

資料1のご説明は以上でございます。

続けて、資料2から4の説明、こちらについては設計会社さんから行っていただきたいと思いますが、まず冒頭、本日の開催趣旨について補足をさせていただきます。

前回、5月16日に開催いたしました、次回の懇談会の開催については9月ぐらいに基本設計がほぼ固まったところで皆さんにご意見をいただくという形でアナウンスさせていただきました。その間、設計会社さんのほうで設計を進めていただいておりますが、やはりこの計画、かなり規模も大きいという、許認可等、非常に難しい部分もあって、設計期間的には余裕がないということを改めて確認できているところでございます。

そういった意味で、大きな設計の骨格となる考え方については、早目に決めていきたいというのが1つ。

それから2点目としまして、これから、資料2のほうで、アプローチ計画とあって、門をどこに置くか、昇降口をどこに置くか、動線をどうするかなど、そういった基本的なところをご説明して、お意見を伺いますけれども、そういった平面計画の骨格となるところについては、懇談会のご意見をよく聞いて進めていきたいということから、今日は7月ですけれども、前倒しをして懇談会を開催させていただきました。

	<p>今日の趣旨といたしましては、これから説明のあります資料2で、アプローチ計画とゾーニングの計画4案の説明をいたしますが、その方向性が1つ。</p> <p>それから資料4で、こちらはラーニングセンター、先ほど前回のご意見でもいただいておりますが、図書館の考え方、配置の考え方について3案お示ししてございます。</p> <p>こういった大きな骨格を固めていければと考えてございます。</p> <p>それから、資料3で、平面計画が12ページとかなり詳細にありまして、見慣れない図面になりますので、これから20分程度かけて設計会社からご説明をいただきますので、その点も含めて、皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、資料2から4の説明をお願いしたいと思います。</p>
設計事業者	<p>はじめまして。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、こちらの画面を使ってご説明いたします。ただ、画面が見にくい場合は、お手元の資料を見ていただければと思います。</p> <p>それでは、説明に移ります。</p> <p>前回の懇談会では、弊社のプロポーザル案をご説明いたしました。建物を敷地のどこに置くか、配置の検討を複数案検討いたしまして、C案が優れているということを確認いたしました。その上で、各部屋の配置を考えて、今回提案を行いました。</p> <p>今回、ご提示する案は、懇談会を受けて策定された改築基本計画・基本方針を実現するという視点をもとに検討を行いました。そして前回の懇談会でいただきました貴重なご意見を踏まえまして、さらにブラッシュアップした案をご提案いたします。</p> <p>最初に、アプローチ計画を考えます。児童生徒の昇降口や、地域利用の玄関を、校舎の配置や周辺道路の環境などを考慮してご提案いたします。</p> <p>次に、ゾーニング計画についてご説明いたします。</p> <p>建築計画ではゾーニングという手法があります。これは内部空間を使いやすくするために、特徴のある空間を機能に分けて、分類して、それぞれにおいて、関連性の高い空間で結びつけて、人や物がどのように動くかを分析します。</p> <p>今回は、1階の限られた面積の中で、昇降口や地域の玄関、職員室等の管理室、アリーナ、給食室、学童クラブの配置が必要になるため、その配置が肝になります。</p> <p>さらに、大きなゾーニングとして、学校のゾーンと地域の開放ゾーン、普通教室ゾーンと特別教室ゾーン、小中の共用ゾーンが考えられますが、2階以上では、特にラーニングセンターの位置が重要になります。この点は、後ほど掘り下げてご説明いたします。</p> <p>資料2というA3の紙がございまして、これはいろいろな案を比較検討したものでございます。プロポーザル案をベースにして、さらに3つの案を提示いたします。</p>

それぞれの案を0案、1案、2案、3案としております。

ゾーニングは、1階の配置をベースにして考えております。それは、どんな種類の人がいつどこから入ってくるか重要になるためです。

まず、前提条件の整理をします。最初に案を考える上で、前提となる条件をこちらに整理しました。これは、1案から3案までの共通事項としています。

普通教室は全て南向き。各学年は1フロアに集約する。普通教室と特別教室を明快に分ける。将来の児童・生徒の増加を見据えた拡張性の確保。職員室は小・中別々に、それぞれのグラウンドに面した1階に配置。災害時の活用を考慮して、アリーナは小・中それぞれ1階に配置。小中学校間の区道を「スクールモール」として整備する、これらを前提条件として各案を考えました。

また、共通事項とは別に、0案からの改善を行いました。

1点目は昇降口の位置の変更です。

小学校・中学校とも、敷地の南側にあったものをスクールモールに面した位置に変更いたしました。

これは基本方針の目標V取組②を踏まえて、小中の自然な交流が生まれる配置を取り入れたことによります。

さらに、1案からの改善として、小学校の普通教室と公園との関係性を改善いたしました。そこで、1案と2案の普通教室の図で説明します。

南側からの採光を確保し、さらに西側からの高井戸公園の眺望を確保する、そして眺望や通風を確保できるように、西側に開いた案に変えてございます。これが2階での比較イメージであります。

以前は、こちらのスクールモール側に開いていたため、公園側に対して閉じていたということもありましたので、教室からも高井戸公園が望めるような、そういう形に変更してございます。

これは、基本方針の目標IV取組①を踏まえて、高井戸公園からの緑あふれる自然環境を享受し、自然採光、自然通風を積極的に取り入れた施設計画となります。

では資料2のプランと、資料3の平面の1案、改善案その1、1階平面図も含めてご覧ください。右下のページの4番です。

まず、1案ですけれども、これは先ほどの資料2の拡大をしているところです。

まず、0案からの改善ですが、小学校1年生を南側の、こちらはクラスルーム（CR1）と書いてあるところに1年生の教室を持ってきたという案でございます。このことにより、グラウンドへの行きやすさや避難のしやすさを考慮いたしました。

まず、改善された点をお話ししますと、スクールモールに面して小中の昇降口や事務室、守衛室を配置しています。そのことにより、日常的には、区道での不審者への抑止力にもなり、安全性が高まります。また、小学校と中学校の体育館の出入口は、それぞれスクールモールに面しておりますので、地域と学

生の交流も図られます。

次に課題ですが、1年生以外は、昇降口が建物の中央部になり、多目的広場に行くのにぐるっと回って、迂回して回らないと出られないということが問題になります。

また、給食室が建物の真ん中に来ますので、搬入用の車両と児童の動線がこちらで交差するというので、運用面での安全性の確保が必要になります。

校庭について、それぞれは独立していますが、何かイベントをするときの連携が図りづらい状況になっております。

次に、第2案です。「改善提案その2（サブ動線案）」というものでございます。

まず、この図をご覧ください。大きく改善したのは、1案に比べて、小学校の多目的広場と中学校の校庭を結ぶ動線を設けたということです。

その結果、小中の昇降口が南北軸であるこちらのスクールモール側に面した1案に比べて、さらにこちらの東西軸に面したところに設置することができ、お互いの接点というものが線になり、自然な交流が生まれます。

また、小学校では、昇降口からサブ動線を通ってすぐ多目的広場に出ることができます。同様に中学校からも、昇降口はこちらにありますので、校庭にすぐ出ることが可能になります。

給食室は小学校の南側になります。搬出用の車両は、スクールモール側に面せず、こちら側から搬出入ができますので、歩車分離ができ、児童や生徒の昇降口付近の安全性が向上します。

さらに災害時には小学校のこちらの多目的広場と中学校の校庭との間に、連携する動線ができます。またこちらは、小型の緊急車両も入ることができますので、全体としての連携がうまくいく形になります。

以上により、1案での課題はなくなります。

新たな課題としては、1階にある職員室からアリーナに行く際には、半屋外のサブ動線をまたいで渡ることになりますが、ここが半屋外になりますので、ここの行き来に関しては、すのこ状のものの設置だとか、そういった対応が必要になるかと思えます。

ここで、学童クラブについてですが、第1案に比べて、ゾーンは小学校の北側で変わりありませんが、形状をL型に変えることで東と西側からも採光を確保し、環境の改善を図ります。さらに、北側がこの図で示しますように、だんだんと低くなる敷地形状を生かした遊び場を提供することが可能になります。これがその断面のイメージとなります。

最後、3案目です。改善案3としては、学童クラブを南側に設置した案の検討を行いました。

こちらの図をご覧ください。改善案その2をベースとして、給食室を学童クラブと入れかえました。こちらが学童クラブでこちらが給食室になります。

改善点は、全ての育成室を南側のこちらの南側採光として確保できる点です。

問題点としましては、アリーナと離れているために、管理ゾーンを移動しないと、児童がアリーナに行けないということになります。

またこの場合は、特に北側に給食室を配置するために、厨房用の設備機器が置かれて、バックヤード的な雰囲気となります。

この断面がそのイメージを示しております。

まちづくりの視点から見ますと、駅から高井戸公園に向かうアプローチとなるため、自然の高低差を利用した計画のほうが、この敷地にはなじむかなと感じます。

次に、資料3、各案の平面を見ていただきます。

実は、ゾーニングを考えるためには、このように概略の平面を描いて、問題がないか検討を重ねていきます。また、細部では、機械設備や電気設備のスペースというものは盛り込まれておりませんが、今後検討を進めていく段階で、各部屋の調整を図っていきます。

0案につきましては、比較する参考として添付いたしましたので、今回は説明を割愛いたします。

では、各案の平面についてご説明いたします。

まず4ページ目です。右下にページが振ってございますが、第1案です。こちらが1階平面図ですが、先ほど説明したように、小・中学校の、この黄色のところが昇降口になっていますが、スクールモールに面しており、お互いを意識させて、自然な交流が生まれる環境をつくれます。

また、守衛室や事務室もこのスクールモールに面して管理がしやすい配置としています。

案の特徴として小学校1年生の教室が南側にあり、学習環境や避難の安全性を高めております。小学校の多目的広場と中学校の校庭は、それぞれが独立を保っております。連携は難しい状況であります。

先ほど申し上げたように、給食室はこちらの赤いところです。建物の真ん中に来てしまいますので、このための搬入動線というのがどうしてもスクールモール側に出てしまいます。

あと地域の方が使う中学校のアリーナの玄関が、スクールモール側からになります。

校内の利用区分が明解ではなくなって、一旦、中に入ってしまうので、セキュリティ区分が明解でなくなるのが懸念されます。

次に、2、3階に参ります。

改善点は、図書館であるラーニングセンターを、小・中共用として渡り廊下でつながる3階にまとめたということでございます。こちらの赤でくくった部分です。ちょうど渡り廊下の根本、小学校棟の上の部分になります。

0案よりも渡り廊下に近づけて、中学校からの利便性を高めています。

こちら3階でございますが、中学校の校舎の上にプールを設置するというのが、日影上かなり厳しいため、小学校の校舎の3階にまずは小学校のプール

を乗せています。4階に中学校のプールを設置しております。

続きまして、第2案です。7ページになります。

1階ですが、ここでの案の改善点の特徴というのは、小学校の真ん中に半屋外空間であるピロティを東西に通して、多目的広場とスクールモールを結んだということです。

その位置を中学校の北側に合わせることで、サブ動線が生まれまして、中学校の校庭と結ばれ、イベント時や災害時の連携動線をこちらで確保しております。

時間外や休日でのアリーナの地域の方の利用は、緑の矢印に沿って行いますので、特に小学校は管理ゾーンがこちらの部分だけで管理できるため、下の部分はクローズしてこちらを使うことができるということになります。

黄色の部分、昇降口をこのサブ動線につけていますので、小・中の正門というものがこちらで正対いたします。そのことによって、よりお互いを意識した交流が生じやすくいたしました。

また、多目的広場や校庭に移動する距離を、昇降口をサブ動線に面することによって縮めております。

給食室は南側にありますので、この道路からの、こちらの位置からの搬出入になります。

続きまして、8ページをご覧ください。2、3階です。

ここでの改善は、小学校の普通教室を西側に寄せて、高井戸公園からの眺望や、自然採光、自然通風を可能にしたということでございます。

また、各学年の廊下からも高井戸公園を望める計画にしております。

このことで、スクールモール側に小学校と中学校の特別教室、この黄色の部分を配置しますので、スクールモールを介して見る、見られる関係というのが、ここで成立いたします。

さらに、図書館であるラーニングセンターというものが、階段を介して2層でつながっている。そういった形にしております。このことで、小学校、中学校の連携を生かした総合図書館としてまとめることができます。例えば、ここでは分野ごとに本をまとめ、小・中の境をなくすことで、深い学びの要求に対応を図れるようにいたします。

また、中学校の理科室は渡り廊下の近くに、こちらが中学校の理科室になりますが、図書室に近づけることによって調べ学習に役立てます。同様に、小学校でも、理科室、図工室、家庭科室をラーニングセンターの近くに配置することによって、連携というものを高めていきます。

次に、9ページをご覧ください。

プールは、小学校の4階北側に1カ所、小・中兼用という形で、今後、検証をしていきます。

2つプールがあると、広いスペースを屋上に確保しなければなりません。また使っていない時間帯が生じたり、コスト的にも無駄な感じが多少ございます

ので、せっかく小学校と中学校が並んで、一体的に整備されるということですから、できればプールを1カ所に設置しまして、スペース効率を上げて、また他学年との交流も図ることが可能になるのではないかとということでご提案しております。

1つのプールで低学年プールも併設することで、他学年との同時使用ができるということで、プール授業のコマ数の不足分を低学年専用プールをつくることによってカバーできないかなと想像しております。この辺も、今後、検証してまいります。

続きまして、第3案です。10ページになります。

改善点は、先ほど申し上げたように、こちらの裏庭に学童クラブを配置しているということです。1階の平面で育成室は全て南側にあるため、北側にある場合よりも、自然採光の面で環境が改善されております。

しかしながら、この場所というのが、こちらの北側の体育館のアリーナに行くのに、職員室の前や管理ゾーンを通過して、約60メートル移動しなければならないということになります。これは日常ですので、移動が大変だということ。また職員室などの管理諸室の前を通過することがよろしくないのではないかなということもございます。

また、学童クラブが南側に来ることで、必然的に給食室を、先ほど申し上げたように、こちらの北側に設置することになります。

ちょうどこの位置が駅から高井戸公園へのアプローチとなりますので、この面にそういう設備的なものを置かないほうがよろしいのかなということもございます。

続きまして、11ページの2、3階です。

この案では、小学校と中学校を別々に図書室を分けて、こちらとこちらに分けた案にしております。

近くにあるということで、すぐ調べ学習に行けるメリットや、それぞれの司書さんが独自に管理できるというメリットがあります。

プールにつきましては、第2案と同じように1カ所にまとめております。ちょうど小学校の北側に横向きに置いております。

最後に、資料4についてご説明いたします。

まずこれは、図書室、ラーニングセンターのイメージ図を描いたものです。

こちらの絵は資料のほうにはございませんが、資料4はまとめたもので、皆さん、こちらの画面を見ていただきたいと思っております。

まず、ラーニングセンターをこれからこういったものにしたらいかなと考えたときに、まず、我々はいろいろなイメージを膨らませて、何がいいかというものを分析して、今回の計画のヒントをつくっていきます。

これから、いろいろ写真をお見せしますが、我々も同じように写真を見ながら、どうしたらいいかな、ああしたらいいかなということで取りまとめてみました。

まずこちらは、台湾の小学校なのですけれども、壁一面に本棚がラウンドして、天井まで回り込んでいるような、そういった本に囲まれた落ち着いた雰囲気をつくっています。特に本棚は木を使って、木の素材の持つ柔らかさ、温かさをこの中で一緒に享受しています。

次は、これはスウェーデンの大学の図書館なのですけれども、吹き抜けの空間の周りをずっと階段がぐるぐる回っていく、そういう空間になっています。これは移動しながら本と出会えるという空間になっています。

これは別の角度から見たところなのですけれども、大きな階段とこのような書架を並行して設置しているという絵です。

そして大きな空間の中、本に囲まれて、その中で読むことができる。そういった空間です。

こちらの左側は、いわき市の絵本の美術館です。小さなコンパクトな空間なのですけれども、この中も階段を使って、本とのコンタクトというものを身近に感じる、そういった距離感を保っています。

右側は、新潟県三条市の小・中連携校の図書館で、吹き抜けを介して、上が中学校、下が小学校の図書館といった構成になっています。

これは江戸川区の小学校の図書コーナーです。図書室は別にあるのですけれども、階段と一体となった本棚で好きな場所で本を読むという、そういうコーナーになっています。

こちらは、武蔵野美術大学の図書館です。特徴的なのは、導入部の、こちらの大きなここから入っていくのですけれども、ここには、今はディスプレイしていないのですが、行くと、新しい新書などをこのようなところに全て飾ってしまっていて、本を積極的に並べて、来館者に刺激を与える、全てこういうところが本棚になっていて、本に囲まれて刺激を受ける空間になっています。

今、見た写真のように、いいなと思うのは、本に囲まれたというのが、居心地のよさとか、何か調べたいなという気持ちにさせる、そういったところが共通にいいと感じて、それぞれ計画をされているのだろうと感じました。

今回の学校でも、何が特徴なのかを考えた場合に、小学校と中学校が並行して、並んで立っているということです。つまり、小学校と中学校が一体的に整備されるという点を特徴だと捉えます。その特徴を生かす空間を、今回の建物の中に用意するというのが建築計画の中では大切にしたい点でございます。

そこで、図書館を小中一体で使うことで、児童と生徒の自然な交流が生まれる、そういった二層吹き抜けの構成のラーニングセンターというものを我々から提案したいと思います。

こちらはそのイメージスケッチです。小・中をつなぐ開かれた学びの場というものが、他学年の交流を生んで、学校の中心となるシンボルをつくっていきます。

ここでは、こういったように本棚に高くまで積み上げて、本に囲まれた居心地のよい空間を児童や生徒の探求心や知的好奇心を刺激するように並べ、深い

学びができる居場所をつくっていかうかと考えております。

これはイメージスケッチです。

実際に模型をつくってみました。

こちらはスキップフロアですね。いろいろな段があつて、階段があつて、床があつて、こういったところに吹き抜けがある。そういう空間で、周囲には本棚がある。そういう空間を考えてみました。

これは、こういう島ごとに、いろいろな分野で分けて、専門性が高いほど高い位置に本を置くことで、知識に対する学年や学校の垣根を外して、小学生でも深い学びをしたい人が専門的な本が読めるように置いたらどうかなという意味でつくりました。

これは上から見た感じで、これは3階で下が2階になって、こういった大階段の中で、好きなところで好きなものを読むという、自由なスタイルが中々できるようにしております。

これはまた全然違う考えでつくったものですが、スロープ案です。

バリアフリーということに対応して、先ほどの案は、途中で車いすの人が行けないところが出てきますので、こちらが1/2分の1勾配、車いすで行ける勾配で、下からぐるぐる回っていくと、上のフロアにつながる。その途中途中で本棚があつて、一筆書きの空間で、一周すると全ての分野の本を目にすることができるという構成です。

このように、これは一例ですけれども、目的とか利用形態を詰めることによって、アクティブ・ラーニングというもののスペースが変わってまいります。

そこでもう一度、資料4を見ていただくと、これが先ほどの分類をしている総括表なので、小・中の図書館の配置について分析しております。

①は2層吹き抜けで一体化をして設置したものです。

これが2層吹き抜けのラーニングセンターで、中学生は3階から、小学生は2階から利用ができるということになります。

こちらは1カ所にラーニングセンターを集めた案ということで、中学生の利便性を考えると3階になるのですけれども、小学校の低学年は上に行かないといけないので、最上階にある図書館というのは、利用率という面では低くなっていくのかなというところは懸念材料としてあるかと思えます。

こちらは別々にラーニングセンターを分ける案です。管理上はこちらのほうが管理しやすい、またそれぞれの近くにつくることができるという意味では、メリットはあるかと思えます。

そういったこの3案を総括したのが先ほどのこちらの資料4という形でそれぞれの使い勝手とか、各評価項目によって、丸ですとか、二重丸などをつけております。

中学校との連携や、特に今回の一体化した学校ということを考えますと、最初の①の2層吹き抜けの中にラーニングセンターを設置する案というのが、非常に効果的であるかなということと、今後、文科省の指導要領でも小学校でア

	<p>クティブ・ラーニングですとか、プログラミングですとか、学びのスタイルというものがどんどん変わっていくという中で、児童・生徒が自主的に学ぶ環境づくりというものの手助けとなる核づくりを取り入れたらどうかと思いましたが、今回、こういった形でまとめてみました。</p> <p>長くなりましたけれども、以上でご説明を終わらせていただきます。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>ただいま、いろいろと説明をいただきましたけれども、まず最初の資料2の4案については、去年1年間かけて固めてきた基本計画でさまざまな目標ですとか、ビジョンですとか、そういったものを皆様と議論して決めてきましたので、それをどうやって具体化していくかという点で、山下設計さんの方をお願いしてブラッシュアップをしてきてもらったと思っています。</p> <p>そういう意味では、資料2の4案の中では、案の2とか、案の3というものが、今、ありましたように高井戸公園の環境を生かすとか、あるいは小中の一体的整備のメリットを生かすとか、そういった面で、教育委員会としても、かなり優れたものになってきたのかなと思っています。そういった部分も含めて、後ほどご意見をいただければと思います。</p> <p>案の2と3の違いについては、これは学童クラブの配置、給食室の配置になりますので、これについては、児童青少年課のほうからコメントなどあればお願いしたいと思っています。</p>
学童クラブ整備担当課長	<p>それでは、私、学童クラブ整備担当から少しコメントさせていただきたいと思っています。</p> <p>第2案と第3案ということでございますが、第2案については、北側に学童クラブが配置されておりますけれども、先ほどご説明の中で遊び場が近くにあるということで、学童の利用者が非常に簡単に利用できるというメリットがあるかと思っています。</p> <p>また、L形にすることによりまして、自然採光も望めるという利点があると思っています。</p> <p>南側にアリーナがございますので、放課後等居場所事業の利用者の方とも、交流できるような、そういったメリットがあるかなということで、児童青少年課としては、第2案のほうがより学童クラブの設置としては好ましいのではないかなと思っています。</p> <p>一方、3案については、育成室が南側にありまして、非常に採光等については十分なのですが、先ほどもご説明にありましたけれども、アリーナとの距離が約60メートル離れているということもございますので、こういった観点から考えますと、児童青少年課としては、第2案が望ましいのではないかと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。ただいまご説明いただいた点も踏まえて、コメントをいただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。</p>
委員	<p>まず、短い期間だったわけですがけれども、大変重要なポイントを、今日幾つ</p>

	<p>かの案ということでお示しいただいて、事務局も設計事務所も大変だったでしょうけれど、ご苦労さまでした。</p> <p>全体の流れを見ると、冒頭に説明がありましたように、9月にこの会議という予定だったけれども、かなり重要なポイントが見えてきて、それについて少し早いけれども、今日ご意見をいただくことで設計グループも安心して進めていける。要するに出戻りがなくて、9月まで延ばしてしまって、やっぱり変更でということになると、全体がおくれてしまうので、今日できれば、大きく言えば2つぐらい大きなポイントがあると思いますけれども、それについてご意見いただけるといいのではないかなと思います。</p> <p>ポイントの1つは資料2に集約されておりますけれども、子どもたち、生徒たちの出入り口、そして地域の住民の皆さんが使う場合の出入り口について、どう考えたらいいかと、0案、当初の案は、南から入っていたけれども、ちょっと欠点があるので、1案ではスクールモール、縦の南北軸から入れることを考えて、さらに2案、3案では、サブ動線ということで、東西軸をとって、そこから入る。これはなかなか合理性があるかなと。</p> <p>東西と南北に2つの軸をつくるというのが2案、3案ですね。その結果でもって、昇降口だとかの関係をどう皆さんが判断なさるかということが1つですね。</p> <p>それからもう1つは、資料4を見ていただきながらでありますけれども、主な施設であるラーニングセンター、図書館をどこに置くか、2つ置くか、1つ置くか、その辺のことが提案され、かつ学童クラブをどう置くか、そういった主要な施設をどこに置くのがよいかということについて、ご提案があったかと思しますので、なかなか細かい図面ですし、たくさんの情報が入っていますけれども、資料2、4あたりを見て、どうぞ素朴なご質問も含めて、できるだけ意見を言っていただくといいなと思います。</p> <p>以上です。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま教育環境など、さまざまな面からゾーニングや平面計画のご説明とコメントをいただきました。</p> <p>具体的に、改築校のイメージが少しずつ見えてきたかと思いますが、皆様からぜひご意見をいただきたいと思います。</p> <p>資料の読み込みが大変かもしれませんので、ここで5分ぐらい時間をとりたいと思います。資料を少し読み込んでいただいた上で、ご質問、ご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
	(査 読)
進行役	<p>それでは、5分ほどたちましたので、まだ見切れていない部分もあるかもしれませんが、ご意見やご質問をいただきたいと思います。どうぞ。</p>
委員	<p>欠席の方から幾つか頼まれてきたので、それをお話したいと思います。</p> <p>一応、中学校の図書館というのは、不登校の子とか、先生たちが授業のとき</p>

	<p>に調べをしたりして、利用している方がさまざまなんですね。なので、無理だとは思いますが、3階ではなくて、1階にあって、職員室に近いほうが先生たちが行き来しやすいのではないですかという意見がまずあったのと、図書館自体、小学校と中学校が一緒になってしまうと、別々のほうが中学生と小学生にはいいのではないかということでした。</p> <p>小・中連携がとれなくなるというところで、三角がついていたのですけれども、もしそれだったら、中学生が小学校に行って読み聞かせをすとか、そういう違う方法で交流がとれていくのではないかということと、現に、今、和泉学園で一緒になっているのですけれども、中学校側にある本を小学生は見られないようになっているそうなのです。小学校の先生から「これは見せないでください」と言われている本があるということなので、現実、図書館でそういうことが起きているのであれば、別のほうがいいのではないのでしょうかということをおっしゃってきています。</p> <p>できれば、小学校と中学校は別の図書室にしてほしいのと、これは私の意見で、全部の特別教室が別々になっていますよね。授業の時間帯が45分と50分で違うので、1つのものを共有すると、授業的に難しいのではないかなと思うので、難しいことを言えば、1階は第2案で、それ以上は第3案みたいにしてもらえるといいかなと思います。</p>
進行役	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>どうぞ、では。</p>
委員	<p>私、詳しくはわからないのですけれども、まず、プールに関して共用という考え方が、今、出ていましたけれども、現実問題、小学校でも低中高と水深が変わるので、それを抜くのにかなり時間がかかるのですね。そこに中学校が入るということで、例えば底を自動的に上げ下げするというプールを考えているのだったらわかるのですけれども、手動で抜くとなると、これはえらい大変なことになるし、また安全面から言っても、かなりこれは厳しいかなと思います。</p> <p>それから、先ほどあったラーニングスペースなのでも、吹き抜けだということはいいのですけれども、これは実情としてお話ししますが、高井戸にもラーニングスペースというところがあって、2階と3階で吹き抜けになっているのですけれども、安全面から危ないというので、今ちょうど嵩上げの工事をしているのですね。</p> <p>だから、子どもは何をするかわからないし、安全ということを最優先にした設計をぜひお願いしたいなと思います。</p>
進行役	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかいかがでしょうかね。どうぞ。</p>
委員	<p>プールについて追加の意見なのでも、杉並区では、水の事故を決して起こさないということで、小学校では2学年にまたがった指導はしないことになっております。</p> <p>ということで、1年から6年まで、全部別々の時間割で組まなければいけな</p>

	<p>いということで、高井戸第二小では、それプラス特別支援学級の7つをコマ数で入れているのですけれども、結構組むのが大変です。そこに中学校の3学年が1つのプールで夏の期間に水泳をやると、多分年間10時間から12時間、体育科の教育課程に入っているのですけれども、それを全部入れるのは難しいかなと思います。</p> <p>さっきおっしゃったように、子どもの身長差が大変あるので、水を入れかえたり、流したり、また加えたりというので、学年の組み方ってすごく難しいのです。1年の次に6年とかはできない。6年の後に1年とかもできないというように、いろいろなってきますので、そこに中学校が入るとますますと思います。</p>
進行役	<p>中学校は私しかないないので、司会なののですけれども、床の問題は、多分、可動床とか入れてくださることを考えているのでしょうかけれども、結局、中学校は男子と女子と先生がそれぞれいて、1つのプールで2種類の指導が行われると。そうするとさらにそれに小学校が1学年入ると、1つの空間で3カ所同時に指導するというのは、子どもの声の錯綜だったり、指導者の声を通らなかったり、そういうことがあるので、時数的に、もし、むりくり埋め込めたとしても、実際の時間割としては、1つのプールの運用というのはちょっと厳しいのかなという気はしているところではあります。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>ラーニングセンターについてのご意見は何かほかにかがですかね。</p>
委員	<p>個人的な感覚ですけれども、ラーニングセンターに関しては、資料4の①案の2階、3階のほうがいいのではないかなと思います。</p> <p>指導的な部分で、中学校の本を見ないでくださいというのは私には何となくわからない部分もあったのですけれども、そうではなくて、本だったりとか、小学校6年生とかがちょっと上の学年の本を読みたいとか思ったときも、見に行きやすいし、自分の興味があるもの、資料ではなくて、読み物だったりとかというのは2階、3階で一体型になっているほうがわかりやすいですし、資料3のどこかにあったのですけれども、個別学習室というのも設けられてあったようなので、そこで中学生とかが静かに勉強できるスペースがあるのであれば、一体型でもいいのではないかなと思います。ただ、先ほどあったように、安全面だけ注意できる構造であれば、一体型はすごくいいかなと思いました。以上です。</p>
進行役	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかいかがでしょう。</p>
委員	<p>今さらなのかもしれないのですけれども、給食室は1つなのですね。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>そうですね。今の計画では。</p>
委員	<p>これはメニューも一緒になるのですか。栄養士さんが何人入るとか。そうい</p>

	った人員は後からなのでしょうけれども、働く側を想像すると、かなりの負担なのか、あとアレルギー等の安全面と、スペース的にこの大きさが十分なのか。
学務課長	中学生と小学生は、食べる物や量も違うでしょうけれども、それはメニューを分けるだとか、今後になるとは思いますが、スペースの工夫や安全面はもちろん十分対応できるかなと考えています。もちろん小学生のアレルギーの子もいらっしゃるし、中学生のアレルギーの子もいますし、それぞれ除去する内容も違いますので、それは十分対応できると思います。
委員	<p>学童クラブが北か南かで、給食室の位置も変わると思うのですが、その配膳方法としての衛生面と動線、結局給食も違うと思いますので、この建物のデザインにとらわれ過ぎて、各学校の校長先生がおっしゃるように、安全性が取り残されているのかなと思います。</p> <p>各学校の新校舎で、実際に子どもとか先生方が働いていらっしゃる中で不便もあると思います。なので、デザインはすごくいいのかもしれないのですが、建てっ放しではないですが、実際、自分がここの給食センターで働いたときとか、預ける側の保護者としては、昇降口がモール側になって安全になったとかはわかるのですが、給食室が1つで違和感というか、やっぱり別がいいのかなと思いました。</p>
学務課長	1つというのいろいろな考えがあると思うのですが、その後、配膳するのもあると思うのですよね。ですから、できれば配膳することであれば、エレベーターが近かったり、棟が分かれていますので、その辺の工夫というか、距離的なものとかは考えていく必要があるのかなと思います。
進行役	よろしいですか。多分、和泉とか高円寺とかは給食室は1個ですよね。
教育施設計画推進担当係長	そうですね。小中一貫校などは給食室は共有してやっています。
学務課長	高円寺も1つです。
教育施設計画推進担当係長	高円寺ももちろん1つです。
委員	それは一貫校だからですよね。併設校で、道路を挟んで分かれていますので、2つという案はなかったのかなと私もこれを見てふと思ったのですが、土地的に無理だったということですか。
学校整備課長	最初に、うちの係長のほうが、去年1年かけて検討していたものを受けて、今回、山下設計さんをお願いして案を出してもらいましたとお話ししましたが、その中で、小学校、中学校の独立性を尊重するというのがあるのですが、当然、一体整備を生かして、今回建てる。その中で共用できるものは共用する、相互利用しましょうというのがまずコンセプトとして示されたというのは、中学校の校庭の面積をなるべく広くとりたいという考えがあります。小学校もそうですけれども、そうすると、同じ必要とされるスペックをそのとおりにすると、中学校の校庭がものすごく狭くなるのですよ。それだとどうですかということ

	<p>なので、せっかく隣り合うので、共有できるものは共用しよう。</p> <p>ただし、真ん中に道路があるので、道路があるとだめだ。最初はその道路を潰してしまえばいいのではないかというのはありましたけれども、それはなかなかできないということで、それを橋でつないで、そういうふうに給食をどちらからかで一方でつくっても、動線できちんと安全に配慮した形、要は外に出ることなく移動させて、給食を配膳することができるようにしようといったものになったので、その議論は去年、ある程度皆さんからご意見をいただいて、集約できているかなと思います。</p>
進行役	<p>よろしいでしょうか。いいですかね。とりあえず給食室としては1つでいくというこの方向で一応確認させていただいて。</p> <p>幾つかあるのですけれども、まずそのラーニングセンターはどうですか。意見の分かれているところなのですけれども、もうちょっと皆さん率直にお感じになったこと等をお話しただければ。</p>
学校整備課長	<p>補足的にお話しさせていただくと、これも同じで、それぞれでつくることは可能なのです。</p> <p>そうすると、面積が限りなく縮小といたしますか、特に中学のほうはそれだけで要求するスペックが果たしてできるのか。ほかの部屋を少しずつ少なくしてやれば、独立した部屋はできるけれども、それも同じで、できればそういったことを共有スペースに、せっかく路上橋があるので、路上橋の近くに配置することによって、共有できる、そういう工夫ができるのではないかとということで、一応方向性としては、そのような意見だったかなと思います。とはいうものの、また改めて設計案が出たので、その中で逆に言えば、いろいろな議論というか、意見を言っていたいただければと思います。</p>
進行役	<p>どうでしょう。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>共有できるものは共有したほうがというご意見ももつともだと思えるのですけれども、例えば家庭科室は、2案だと共有だけれども、3案はちゃんとそれぞれあるとか、図書室もそれぞれあるとか、さっき言っていたけれども、授業が50分と45分で違ったりとか、中学校は、家庭科は週に1回程度かもしれないけれども、小学校も5、6年生が必ずするものなので、そこで何かうまく調整ができなくなることもあるのではないかとか思うと、それぞれの部屋というのは独立していたほうが、特に、図書館も、先ほどご意見あったとおり、中学生というのは、調べ学習、読み物、YAというヤングアダルトという図書の分野は、すごく今、中学校の図書室は充実しているのですけれども、そういう部分と小学生の絵本とか、小学生の読み物を混在するのはどうなのかなというのも心配なところですよ。</p>
進行役	<p>いかがでしょうか。</p> <p>小学校の先生のお立場でどうなのですかね。共用でというのは、いかがですか。</p>

委員	<p>どうでしょうね。小・中の交流という形ではいいのかなと思いますし、本の管理であれば、管理の仕方というのがいろいろあるのかなと思います。</p> <p>ですから、一体のほうにメリットを感じるかなとは思いますがけれども。</p>
委員	<p>先ほどのお話の中に出ていた、初めは一体型でつくったけれども、現在はまたそれをもとに戻すような動きになっているというお話ありましたけれども、もう少し具体的にその情報とかは、なぜそういう状態になってしまったのかということとはわかりませんか。</p>
進行役	<p>高井戸小の様子を教えてくださいませんか。</p>
委員	<p>それとはまた別の問題で、吹き抜けであるところの3階部分の高さ、囲ってはありますけれども、ぐらぐらしているのですよね。そこが。</p>
委員	<p>吹き抜けのところの安全の……。</p>
委員	<p>安全の柵のところですか。</p>
進行役	<p>それは図書室でということではなくて、建物の構造の吹き抜け……。</p>
委員	<p>高井戸は小中一貫ではないので。</p>
委員	<p>吹き抜け自体の構造の話ということですよ。</p>
進行役	<p>なるほど。</p>
委員	<p>そうすると、施工が悪いとか、そういうことになりますよね。例えばね。考え方の問題ではなくて、きちんとした施工がなされていれば、安全を確保できればいいということになりますね。</p>
委員	<p>さっきのは新泉和泉の本、例えば中学生には読ませたいけれども、小学生にはとことというお話だったですよ。私もどういう本なのかなという、ちょっと想像がつかないところがあつて。</p>
委員	<p>小学校の先生から言われたみたいなので、どんな内容かまでは私も聞いてこなかったのですけれども。</p>
委員	<p>一般的に普通の図書館を小学生も利用しますし、そこには大人の本もいっぱいあるわけで、ちょっとわかりづらいなとは思いました。小学生が図書室を利用するのに、クラスで利用する時間とかがあつて、そこに中学生も利用するとき少しスペース的にうまくしてあれば、私はいいような気がします。広く使いたいときに、中学生が使っていなければ、そこを逆に学年全体でみんなですべてしてしまうとか、逆のこともできたりするのかなと思ったり、図書室は結構広いスペースなので、両方一緒にまとまって少し広くなったら、いろいろ工夫もできるのかなとか、小さな畳の読み聞かせコーナーもあつたりとか、そういうものをつくっていただいたりして、結構夢のあるスペースになるのかなとか思っています。すてきなスペースになれば、渡り廊下を渡っても行きたくなるということもあるでしょうし、渡り廊下のスペースをまたいぎなうような、そういう工夫をすることもできると思うので、新着本の紹介とか、いろいろ何か工夫次第かなと思うのですけれども、図書室の共用化は。</p>

進行役	<p>確かに一長一短あるわけで、その辺でどうご判断するか。中学校の今の実態だと、総合的な学習の時間等々で使うときに、キャパが1クラス分しか入らないと、1クラスが図書室でやって、1クラスは教室でやって、次の時間に入れかえてやるとかというような運用の仕方が、例えば大きな図書館があれば、1つの学年がまとめてどんと入って、そこで一緒に修学旅行のコース決めを学年で取り組むとかということができたりするような、そういう部分での使い勝手のよさは出てくるということはあるのかなど。それは小学校も同じですよ。</p>
委員	<p>はい。学級数の問題がすごく気にはなるのですけれども、時間割、結構うちなんかも図書室をいっぱい使っているんで、うちは4学級全部ありますし、特別支援学級もあるので、そこがちょっと。</p> <p>だから、スペース的には少し、1.5ぐらいはないとだめなのかなと思って、少し2つに分かれるような、分かれるというのは、その中で学習スペースが、書架がちょっと間にあるような形で。</p>
委員	<p>図書室が一体になったときの平米数はどれぐらいなのですか。</p> <p>中学生が使うときに、小学生の時間がかぶってくる場合、小中の先生方の連携も大変になるし、現場は混乱するのではないかなと思って、今、平米数というか、広さで畳み何畳でもいいのですけれども、言ってもらえると、どれぐらいの……。</p>
委員	<p>例えば、高井戸の例で言うと、素朴にラーニングスペースがあったものが、児童数の増加に伴って、それがどんどん侵されてきて、今、ものすごく小さいのですよ。図書室自体は。</p> <p>そうすると、それを学級で、今、前田校長が言ったように割り振るとほとんど全部埋まっている。</p> <p>だから、必要な本を抜き取って、逆にそれを書架のワゴンで学年のほうに持って行って学習するという。要するに、図書室で本来、本当に広いスペースがあって、1学級が使ってでもそこへ行って、できるぐらいだったらいいのですけれども、うちの場合はそれが構造的にできないので、今みたいな形で対応している。</p> <p>常に先ほど中学でも出たように、小学校でも社会だとか、何だろうが、あらゆる教科で調べ学習ということはやっているんで、利用頻度はものすごく高いです。</p>
委員	<p>それを考えると、やはり別の方がいいのではないかな。小中一貫である場合と、併設校の図書館だけとか、この1つの空間、部屋が合一ではなくて、その小学校5、6年生がいずれ中学生になるというときに、その渡り廊下を通して中学生に触れ合うこともある中で、そういう本に触れる。あと実際児童と生徒が交流する場面は、兄弟関係もあるので、ここに登校し始める中で「おはよう」の1つから、日常的なところからの交流ということを考えて、実際、今行われていることを、場所が変わっても、建物が変わってもできるプラスアルファ、そこに何か、わかりますか。小中一貫のイメージ、高円寺にしても、和泉にして</p>

	<p>も、それぞれ取り組まれてメリットもあるかもしれないのですが、このスペースの問題と、ここの道路の問題いろいろで、併設校と私は聞いているので、その一体とか、小中一貫とか、どうしても話していくと小中一貫系の話に聞こえてしまって、仕方ないのです。図書室は、中学校3年生の母からすると、どうなのかなと、小学生が賑やか過ぎるとかそういう話ではなくて、やはり別で落ち着いてという、そういった空間も必要かなと思います。別々が私はいいいのかなと。</p>
学校整備課長	<p>今のお話で、小中一貫にこだわらないというのは当然そのとおりで、ここは和泉とか高円寺と違って、いわゆる小中一貫教育校ではありませんが、ただし、去年も検討する中では、当然、高井戸小も含めて、富士見小・中と高井戸小の3つで小中一貫教育は取り組んでいるというのが前提なので、教育委員会として、ここは小中一貫教育校の校舎ではないから、それはしないというのは、それとも違うかなという気はちょっとします。</p>
委員	<p>ただ、この建てかえについて、そろそろ地域の保護者はかなり敏感になっていて、ここで決定されることは、今後の杉並区の教育の考えにもそれぞれ影響が出なくはないと思っています。</p> <p>共有の場所を求め過ぎる余り、全ての児童と生徒がそれに見合う行動ができる、できない、さまざまな環境がある中で、しっかりしたきれいな建物ができ上がるのはそれはみんな望んでいるのですけれども、子どもたちが自然に登校できる学校施設であってほしいなと思います。</p> <p>なので、小さな意見が出たとしても、そこは拾い上げていただいて、どこも完全な完璧な学校があるとは言えないのですけれども、ちょっと1つ1つ丁寧に議論してほしいなと、考えていただければ助かります。</p>
進行役	<p>どうぞ。</p>
委員	<p>ちょっとお聞きしたいのですが、そのラーニングセンターを別々にした場合、建物の面積的にほかの部屋が小さくなるとか、なくなるとか、そういう影響というのがどこか出てくるのかなと思うのですが、私が見た範囲で質問するのは、2案でいくと、小学校の個別学習室は3つとれるようになっていますが、3案で行くと、個別学習室というのは1つなのでしょうか。2つと数えるのかな。数が少なくなっているのかなと思うのです。</p> <p>特別支援教室の現状を言いますと、今、とても人数が増えていて、お部屋の数を確保するのがとても重要な問題になっているのですね。</p> <p>ですから、個別学習室が3つとれるのであれば、そのほうが学校としてはうれしい部分があって、そういうところがラーニングセンターを別々にすることによって、減らされるというのであれば、そういうところも明らかにしていただいて、どちらを大事にするのかということを考えていかないといけないのかなと思っています。</p>
教育施設計画推	<p>ラーニングセンターを別々にすると、ただちにそちらで個別学習室が狭くし</p>

進担当係長	<p>ないと成り立たないということはプラン次第で、ないと思います。</p> <p>さっき、整備課長のほうからもありましたけれども、当然、中学校棟にいろいろな機能を持っていくと、最終的にはその中学校の校庭の広さだとか、そちらの制約にはなり得るとは思いますけれども、諸室について、ただちに減らさないと、完全に計画として成り立たないということは今までもないので、ちょっと3案のところ個別学習室の数というのは、いろいろなプランを考えている中で、今、そういう配置にたまたまなっているということで、直接的にそこに影響するという事ではないとご理解いただければと思います。</p>
進行役	<p>例えばその別々につくると、1だけでも、一緒にすることによって、1.8のスペースでできるから、その分0.2浮くとか、そういう問題ではないということですか。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>全体としてはそういう要素はあります。当然、給食室にしても、それぞれでつくるということになるので、スペース的な効率は絶対悪くなるので、そういったところは、それでも1つにして、エレベーターなどで速やかに運べる工夫をすることのほうが、全体としては効率的になるという要素はありますね。</p> <p>だから、その中で、今回は容積率は非常に厳しい土地だということで、去年からも説明させていただいていますけれども、現状もかなりぎりぎりのところは、今、機械室などは入っていないので、これでおさまっていますが、廊下だとか、そういったところを含めると、かなり厳しいのが現実で、そういったところからしても、全体として圧縮していくという考え方はどうしても持たないと、土地としても厳しいというのはそもそもあるというところではご理解いただければと思います。</p>
進行役	<p>そこで完全にどちらかがすごく優れて何とかということがなければどうなのかという考え方も必要だということですよ。</p> <p>実際、今、中学校だと、高校の先生が来たり、保護者の方等が来て、担任が面談しようという、そういうスペースすらないのです。取り出して個別指導しようと思っても、部屋がないので、パソコン準備室を整理して、そこで口頭で個別指導しなければいけないとか、そういう非常に苦しい状況があるので、それである程度一体化することで、スペースが生まれるというのであれば、そういうことも十分利点として考えて、ではその一体化した中で、小学校、中学校が今以上によりよい教育活動ができるのはどういうことなのかということを考えるような、教える側の発想を従来のものと変えていくということも必要なのかなという気はしますね。</p>
委員	<p>改築してきれいな新校舎になった学校の多くが、児童数が予想以上に伸びているので、本当に教室が足りない状況がいっぱいできていることは十分考えないといけないとされていて、すてきなプランなのではけれども、3学級で考えられていますよね。3で本当におさまるのかというのが、個人的にはすごく心配で、先ほど特別支援教室のお話もあつたのですけれども、特別支援教室も6学年全部やるので、1つの教室ではもちろん足りなくて、やっているときに複</p>

	<p>数教室が必要ですし、そのほかに少人数の算数もしていて、2学級を3つに展開したりとかというときに、うちは4学級なので、結局、同時にやるときに、部屋がプラス2つ必要になるとかふうにどんどんなっています。</p> <p>今のところ、うちは2年生からやっているのですが、算数のそういうお部屋を教室以外で3つ使っているのですけれども、将来、児童数が増えたときに、ここを当てれば何とか通常のクラスは持てるかなと思っていても、そこは実は、算数を少人数で大事な部屋であったり、特別支援教室として使っていたりして、うちも、今、ランチルームを特別支援教室として使っているのです。幾つかのスペースに分けながら、和室とかも含めて。</p> <p>なので、そのあたりが一番このプランを見て心配なのは、本当に当初から3学級でおさまるのかというのは、ずっと申し上げているのですけれども、住基台帳を見ると、大丈夫ですというお話なので、そうすると、それ以上はお話できないなと思っているのですが。</p>
進行役	<p>そうするとどうですかね。</p>
学校整備課長	<p>昨年もいろいろ皆さんからご意見をいただく中で、どの部屋がどのぐらい必要なのかということで、今、校長先生のお話が出たように、3学級ずつ、18クラスというのをまずは標準で小学校の場合にはつくる。</p> <p>ただし、少人数教室というか、多目的室を各フロアに配置して、これをいざとなれば、教室としても転用できるような工夫をしておけば、最大で24とか、そういうものにも対応できると、一応は工夫はしています。</p> <p>それ以上、さらに子どもが伸びるとかとなってくれば、この計画そのものはどうなのだというのは問われますけれども、一応、人口の予測だとか、学級数の予測を見れば、とりあえずこの予備のスペースも含めてやれば対応はできるだろうという一応見込みはしているという数にはなっているところです。</p>
委員	<p>すごく気になるのはその部分で、確かに定められて決まっている面積、その中で決められたものでつくらなければいけない。</p> <p>ただ、算数の少人数もやらなければいけないし、支援教室もやらなければいけないという中で、どっちがということではなくて、共用できるところは共用して、そういう個別の部屋だけはしっかりとたくさん、中学校でも小学校でも、確保するような設計はぜひやってほしいかなと思います。</p> <p>だから、変に共用できるところを広げて、個別のところを減らすということがなく、それは転用できるとか、そうではなくて、本当に個別で部屋があればあるほど必要感はあるので、ぜひそこら辺はお願いしたいなと思っています。</p>
委員	<p>実際、天沼小さんは、図書室をなくした時期もあったりして、地下におろしたら今度は本がかびてしまったという、すごくご苦労されているのも聞いていて、あと廊下スペースを図書室の書架を置いてというのは、何かとても残念な気がします。</p> <p>せっかくすてきな図書室があっても、そういうふうになってしまうよりは、当初からしっかりと今、実際にやっている必要な教室を確保していただいて、</p>

	その上で残ったスペースをまた工夫していただくほうが、学校経営上はとてもありがたいと思います。
進行役	今、ご意見をお聞きしていると、まず、ラーニングスペースをどうするかということの前提として、きちんとまず建ぺい、容積率が限られている中で、いかにきちんと効率よくつくっていただくのかということなのかなと。どちらかという、メリット、デメリットはあるのですけれども、どうですか。
委員	今、先生方がおっしゃっているのはすごくわかります。1つのほうが効率的だなとわかるのですけれども、図書室は子どもの居場所にもなっているのですよね。そういう場所だということはどこかに置いておいてほしいのです。 安易に1つにして、広いスペースをつくったから来づらい子たちがそこに来て居場所になるかといったらそうではないと思うので、そういう空間をどこかにつくってもらうような、配慮をしていただければいいかなと思います。
進行役	そこは多分、細かい設計でまたいろいろ相談室の置き方とか、そういう工夫はできるのかなというところですね。
委員	ちょっとした居場所なのですよ。なのでそこが……。
進行役	そうですね。まず、大きな柱として、そこをまず整理しないと先に進まないなので、とりあえずは一体型の整備の方向でとりあえずは一応まとめさせていただいていいですか。 一緒にして効率を生み出せる設計の自由度をある程度担保できるように。
委員	それを小学校側に。
進行役	小学校側に。
委員	図書室だけではなくて、全ての特別教室をということですか。
進行役	いやいや、今、とりあえず図書室。ラーニングセンターをということですよ、とりあえず。まずラーニングセンターとアプローチをどうするかという、その2つを、今、大きなところを決めて、細かいところはまだこの後やっていくわけですよ。 まず、基本設計、形をつくるのに、この大きな柱が2つ決まらないと方向性が出ないからというお話でしたよね。
委員	まあどちらかですよ。細かいところは後にしたらいいよねという発想もあるのですけれども、私の中では……。大丈夫です。
進行役	では、まず一旦、もう時間もあれですので。 次に、アプローチのほうについてはいかがでしょうか。 一応、学童の置く場所で北か南か、児童青少年課の方は2案、遊び場も有効活用できるのでといったお話でしたけれども、これについて何かご意見、ご質問がある方いらっしゃいますか。 これは特にご意見がなければ、このまま2案でという形でもよろしいですかね。
委員	傾斜地はどこまでが学校用地で、どこからが公園になるのか、今、少しずつ工事が始まっていますけれども、坂になって、ジャングルみたいになって、そ

	れで通行できない川沿いのところになりますよね。あれは学校用地はぎりぎり川のところまでですか。
学校整備課長	この土地はもともと社宅が建っていて、造成している公園側には多分、古いフェンスがまだ残っているのではないかと考えていますが、あれがそのまま学校と公園との境になるはずなのですよ。その北側で言うと。北側の崖地の南を正面に向くと、その左側の下がっているところに古いフェンスがありまして、そこが境という感じ。最後、どうしつらえ合わせるかは、向こうの造成のぐあいと合わせてこっちをどうするかはやりませうけれども。
委員	今、盛り土というか、やっていますよね。あそこは公園ですね。
教育施設計画推進担当係長	はい。あれは公園です。
進行役	では、アプローチについてはよろしいですか。大体2案という方向で。 現実的に、南側は採光はいいですけども、実際に動線を考えると、これはかなり厳しいのかなというところもありますので。 ではアプローチについては2案ということで、一応、まとめさせていただいてよろしいでしょうか。 そのほか何か補足でご意見、ご質問等ある方いらっしゃいますか。 よろしいですか。あと何かありますか。今以外のことでも。その基本設計… …。
委員	これで行くと、全て2案ですか。
進行役	今のご質問は、資料2で大体のアプローチの位置についての確認なのか、この細かく提案していただいた資料3のほうまでも含めて、2案なのかというご質問なのですけども。
教育施設計画推進担当係長	前者です。資料3については「イメージ」と書いてありますけれども、それぞれのプランで部屋をはめてみたときに、このような形が考えられるだろうということなので、諸室の細かいところについては、これから大枠を決めていただければ、その中でまた改めて詰めていきたいなと、そういうものです。
進行役	それはコンプリートしたものではないと。時間もあるので、2案のイメージで何かご意見があったり、ご質問があれば出していただけると、設計業者さんもちよっと助かるのではないかと思います。ご意見があれば。どうぞ。
委員	広さだけしつこいようですけども、教えてもらえると助かります。
教育施設計画推進担当係長	ラーニングセンター、今、大体450平米ぐらいで計画されています。 例えば、小学校のアリーナとかが600平米弱ぐらいなので、その4分の3とか、それぐらいの。
進行役	単独だと幾つ幾つなのですか。
教育施設計画推進担当係長	単独だとその半分強ぐらいの広さです。
委員	別々だと200ずつ。

教育施設計画推進担当係長	そうですね。200ずつか……。
学校整備課長	当然、それぞれが小さくなる。そこでスケールメリットがどうなのかなというご意見が出ていたのではないかなと思います。
委員	そうしたら小学校の200分のスペースがあく。いろいろな個別の……。大丈夫です。
進行役	ほかいかがですか。大体よろしいですか。 お願いします。
委員	ラーニングセンターも、一緒にするのと別々で面積の関係が、まだほかとの関係もあるから、そんなに厳密には言えてないけれども、多少一体化したほうが効率的だろうというぐらいは見えていますよね。 それから、ご意見として、非常にそれを期待する、面積の問題ではなくて、一緒に学べる、そういうものがあることを期待するご意見も結構多かったです、また逆に欠点を危惧されるご意見もありました。その辺、23区内でも既にこういうことをやっておられる他区の事例もあるように、さっきのスライドで見ましたので、その実例的にどんな規模でという、今回の富士見丘小・中とも照らし合わせて、どういう欠点や利点があって、それがどのように運営されてというのもちょっと余力があれば、1、2校は実証的にやっていただければ皆さんの理解も進むかと思しますので、本校は今日決めていただいたことでいいと思いますけれども、さらに具体例で検証していただくのも悪くないかなと思います。
進行役	では、よろしいでしょうか。 では、これで議事は終了となりますので、閉会の前に事務局から連絡事項についてお願いいたします。
教育施設計画推進担当係長	ありがとうございました。特に、ラーニングセンターについては、いろいろ課題についてご懸念の声もいただきましたので、先ほどあった小・中学校は使うのに実数が足りるのかですとか、その居場所の関係はどうかとか、ちょっとそのあたりは宿題としていただいたと思いますので、そのあたりも確認しながら進めていきたいなと思います。 では、連絡事項ですけれども、今日の会議録をまた前回までと同様に、まとめ次第、送らせていただきますので、内容の確認をお願いできればと思います。 また次回は、基本設計、今日いただいたご意見を踏まえて、ある程度進んだ段階で当初予定どおり、9月か10月ごろに予定しておりますので、また日程調整のほうをさせていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。私から以上です。
学校整備担当部長	学校整備担当部長でございます。本日はありがとうございました。 今日はプロポーザルの提案を含めて、初めて具体的な案を皆さんにお示しして、大変さまざまいろいろな角度からご意見をいただけたかなと。

	<p>特にラーニングセンターですか。図書館のところは本当にさまざまご意見があるなということで、一定の方向性は今日決めさせていただきましたけれども、もちろん皆様からいただいたご懸念については、今、係長が申し上げたように、少し研究をさせていただいて、高見澤先生からも、ほかの区の図書館、ラーニングセンターでそういったところもありますから、どういう克服のされ方をしたのか、そういったことを1つ1つ小さい声を受けとめながら、方向性を決めていくというのが、区教育委員会の立場でございますので、しっかり丁寧にやっていきたいと思っています。</p> <p>それから個人的には、私もプールの1カ所は心配だなと。意見で言おうかなと思ったのですけれども、活発だったので言えませんでした。本当にコマ数もつのかなと。</p> <p>高円寺は確かに1個なのですよ。ただし、屋根をつけて、6月から9月までという、時間軸を延ばして、それでコマを確保するというやり方をとったのです。そこまで行けるのかということも含めて考えると、事務局の私が言うのも変ですけれども、すごく心配です。そこは少しまた設計会社とも詰めていかなければ。</p> <p>ただ、2つつくるとお金が全然違うとか、いろいろなさまざまな問題もありますので、そこはまた丁寧に、実際に先生方からも聞いていたのですね。深さの問題、危なさの問題も当然1番にあるのですが、2番目がコマ数もつのかというのがすごく心配です。改めてこれも検討させていただきたいと思います。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
進行役	では、以上で終了です。ありがとうございました。